

福岡小学校の ESD 活動

<活動の概要>

本校では、地域の特色ある史跡や公園、そして地域性の高いさまざまな行事を授業に取り入れることにより、地域に関わり、地域に愛着をもつ子の育成を目ざした教育活動を実践してきた。とりわけ総合的な学習や生活科では人・もの・自然と積極的に関わりをもつことで、地域に学び、関わりを深める子どもを目ざしてきた。校区の自慢できる場所の発見とその紹介、校区在住の人材の魅力的な生き方、また、校区のためにボランティアを続ける方々の思いなど広く学ぶことができた。

・活動の実際

① 地域の「もの」「自然」との関わり ～福岡ウォーク～

地域と子どもたちのふれあい活動の場として位置づけ10月に実施をした。2・4年生で異学年間の交友を広げ、相互のつながりを深めることができた。子どもたちは、事前に校区の史跡や公園などを調べ、郷土の状況を把握するようにしていた。学んだ内容からクイズをつくり、興味・関心を高めることができた。取材やインタビューをすることで地域とさらなる関わりをもつことができた。

当日は校区自治会や保護者ボランティアにも協力をいただき、施設の案内や立哨指導をしていただいた。なまず池、正光寺、潮音寺、小池神社、橋良町公民館、スポーツ広場など、校区の各所で歴史や伝統、住民との関わりなど積極的に学びを深める姿があった。

集団での活動を通して、思いやりの心を育て、ルールを守りながら行動することの大切さを学ぶことができた。活動後には、学習のまとめとして新聞づくりを行った。他学年の児童や地域の人へ校区のよさを発信した。



スポーツ広場の由来を教えてください

② 地域の「人」との関わり ～米作り・働く人に学ぶ会～

毎年、バケツを使った米作りを行っている。校区に住む農家の方を講師として招き、田植えの時期には、土づくりや苗の植え方、稲の世話の仕方について学んだ。稲刈りや脱穀なども支援をいただいている。実際に話を聞く中で、現在の米作りにおける問題点についても学びを深めた。さらに、日本の主食である米への愛着を深め、農家の方の苦労や努力、昔の人の知恵のすばらしさを学んだ。



土の作り方を助言してもらう

また、6年生では将来の夢について学習をしている。それにあたって、地域で働く人を講師に招き、職業についてだけではなく、生き方についても学ぶ場を設定した。今年度の内容は、「動物園職員」、「プロマリンバ奏者」「高校教師」であった。子どもたちは講師の熱い思いにふれ、働く意味を見つめ直した。



仕事のやりがいについて聞く